

You & I

第21号

2022年
3月1日発行

あなたと私…優しさと愛…

年齢・性別に関わらず、互いに認め合い、心豊かにいきいきと暮らせる社会をつくりましょう。

- 1 …… 表紙 介護と向き合う家族 いつも一緒に励まし合って
- 2・3 … 特集 介護と男女共同参画・男性のための男女共同参画講座案内
- 4 …… 杉戸町女性相談窓口・With Youさいたま・内閣府相談案内・生理用品配布案内



『無意識の偏見』していませんか？

『アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）』という言葉をご存知ですか？自分自身が気づかずに持つ偏った見方・考え方・思い込みのことで、誰もが持っているものです。自分の過去の経験や周囲の意見などから形成され、「普通はこうだ」（価値観を決めつける）「どうせ無理だ」（能力を決めつける）「こうあるべきだ」（理想を押し付ける）などがあり、自分基準の言動で相手を傷つけたり、時には自分自身の可能性をも狭めてしまいます。

自分の中の『アンコンシャス・バイアス』に気づくことは、一人ひとりができる男女共同参画社会への一歩です。それは、「男は仕事、女は家庭」といった固定的な性別役割分担意識や性差に関する偏見の解消につながり、誰もが活躍する男女共同参画社会の実現につながっていくと考えます。

女性も男性も生きやすい男女共同参画社会が一日も早く実現するよう、情報紙「You & I」はこれからも情報提供に努めてまいります。

すぎと男女共同参画情報紙

介護と男女共同参画

今日本では高齢化が急速に進み、令和4年2月現在、杉戸町の65歳以上の高齢者は町の人口の約33%を占め、介護の必要な高齢者が年々増加しています。

令和元年度(2019年度)杉戸町男女共同参画に関する住民意識調査で介護の希望について調査したところ「介護サービスを受けながら、できる限り在宅で暮らしたい」が53.9%と高い数値となっています。

一方、介護を取り巻く状況は厳しく、適切な介護が受けられない介護難民や、高齢の夫婦間や親子間で介護をする老老介護や、高齢者への虐待など様々な問題が生じています。

男女共同参画社会の形成のためには、高齢者が元気で自立した生活を生き生きと送れることや、介護をする側の負担の軽減・地域や家族の支え合い等の環境整備が重要です。

実際に家族を在宅介護している女性にインタビューしました。



現在、79歳実母、50代娘の2人暮らし 杉戸町在住

母が11年前に脳梗塞で倒れ、右手・右足が麻痺し、失語症も発症。現在も後遺症が残る。

4年前に父が他界後、一人で母の介護にあっている。



Q1

施設ではなく在宅介護を選んだ理由は？

A

母が一生懸命につらいリハビリに取り組んでいる姿を見て、側にいて回復させてあげたいと思ったからです。

Q2

仕事と介護の両立は？

A

母を長時間一人には出来ないので、パート勤務から自営業と農業に変更しました。両立はとても難しいです。

Q3

在宅介護している中での困難は？

A

- ・母が失語症なので、意思の疎通がしづらい時がとても大変です。
- ・突発的事故や、夜中ベッドから落ちてしまった時の介助が一人では大変です。
- ・母の介護中心に生活しているので、現在の収入面や、自分の老後の資金も心配です。また、自分自身に使える時間が少ないです。

Q4

どんな支援があったらいいですか？

A

- ・家のバリアフリーなどの改修費用補助がもっとあったら、在宅介護は楽になると思います。
- ・失語症のケアにあたる医学療法士が増えて欲しいと思います。
- ・介助するためのセミナーがあると良いと思います。
- ・ショートステイや、デイサービス利用時でも医療機関に診てもらえるような体制が整うといいなと思います。

Q5

心の支えやモチベーションになっているものは？

A

- 人とのコミュニケーションです。
- 母と共通の知人、友人、ご近所の方の支えはとても大切だと実感しています。
- また、お世話になった看護師さんに「つらい、悲しい、心配等」の思いを伝えることができ救われています。
- ペット(猫)にも癒されています。



介護は他人事ではありません。また、介護は症状・家族構成等によって家庭ごとに異なります。ある日、突然、家族が倒れて・・・いきなり、介護が必要になったり、仕事との両立が困難となることも考えられます。いつかくる、その日に備えてできることを考えてみましょう。

1. 日頃から、介護について家族・親戚等周囲の人と話す機会を持つ
2. 地域の人とよい関係づくりをする
3. 介護情報を早めに手に入れ、「いざ！」というときに慌てないように準備をする(介護休業制度を利用する)
4. 早めに、専門家に相談をする
5. 介護の負担を一人に集中させない(介護保険制度の活用など)



厚生労働省

介護休業制度特設サイトで介護休業等、仕事と介護の両立支援を紹介しています。

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyoukintou/ryouritsu/kaigo/



令和3年度

男性のための男女共同参画講座【動画配信中】

「戦略的に家事育児シェアできる！～家族の“対話”と“助け合い”のための3つのメソッド～」



日本唯一の家事シェア研究家である三木智有氏が、男性の家事・育児参加が当たり前になりつつある今だからこそ、必要とされている「家事育児シェアのコツ」について、分かりやすく実例を挙げながら紹介しています。

申込方法：右のQRコードから申込。

または、住所、氏名、年齢、メールアドレス、電話番号を入力し、下記アドレスに送信。

✉ jinkendanjo@town.sugito.lg.jp

後日、講座視聴のためのURLを送信します。

配信期間：令和4年3月31日まで



【視聴した方の感想】

- 結婚30年。もっと早いうちに家事シェアを学んでいれば円満な家庭が築けたかもしれません。今から、チャレンジします。
- 家事シェアのスタイルは、家庭によって様々で、うまくいくポイントが異なることが目からウロコでした。具体的で、すごくわかりやすかったです。

家事シェアのタイプは、 家庭ごとにいろいろな形があります。

毎日の対話の中で育まれたパートナーシップこそが、その後10年の家族関係を変えていきます。

Ⓐ 現在、僕が主夫です（70代 男性 家事歴18年）

きっかけ：定年退職。いずれ自分のことは自分でやらなければならない時が来る。その時、慌てないように、家事も趣味も仕事もできる時にやる。主婦（夫）は二人いない！の気持ちで、妻は仕事にまい進！共に束縛、強制することなく、協力し合っています！

Ⓑ 家事は私の方が向いていた（70代 男性 家事歴8年）

きっかけ：先輩から「将来、妻に邪魔にされるだけの夫にはなるなよ」の助言で変身。出来る家事から始めて、今では食後の後片付け・掃除・洗濯までこなす。妻からの「ありがとう」の一言が嬉しくて、励みになっています。

Ⓒ 夫、子どもに囲まれて充実した人生（70代 女性 家事歴50年）

結婚してから、夫を支えて共に生きてきました。家庭を守ることは私の誇りです。

私の好きなように、家を任せてもらえて夫には感謝しています。

女性の社会進出が増えていますが、お互いが納得するような形で、家庭や仕事を守っていかれたらいいと思います。

杉戸町女性相談窓口

だれにも相談できずに、
ひとりで悩んで
いませんか？



女性としてのさまざまな悩み、内容によっては、家族や友人に相談しにくい場合もあります。そんなときは、ひとりで抱え込まないで女性相談窓口をご利用ください。専門の女性心理カウンセラーや女性相談員がサポートします。

どうぞお気軽にご相談ください。
相談者の秘密は守ります。

★相談日／毎月第1・3水曜日
(祝日の場合は翌日)
13:00～16:00

要
予約

★費用／無料

★申込・問合せ／人権・男女共同参画推進課
☎ 33-1111 (内線217)

※毎月の日程は「広報すぎと」をご覧ください。

With Youさいたま相談案内

◆電話相談

埼玉県在住・在勤の方を対象に、性別や内容を問わず相談に応じています。

★受付時間／月曜日から土曜日(祝・休日、
年末年始及び第3木曜日を除く)

予約
不要

10:00～20:30

★費用／無料

★相談室／☎048-600-3800

※相談の内容により面接相談を行う場合があります。

内閣府相談案内

DV相談ナビ #8008 (はれれば)

DV相談+ ^{プラス} 0120-279-889

メール相談・SNS相談・外国人向け相談
などにも対応しています。

詳しくは右のQRコードを
ご覧ください。



必要な方にお渡ししています。

杉戸町では、経済的に困窮しているなど、生理用品を入手することができない方に、生理用品を1家族1パックお渡ししています。(なくなり次第終了)

配布場所

・杉戸町役場 子育て支援課及び福祉課の窓口 ・保健センターの窓口 ・各公民館の窓口



情報紙編集委員募集!

あなたの自由な発想で、「男女共同参画情報紙」の企画・編集に関わってみませんか。仲間たちと楽しく手づくりの情報紙をつくりましょう。経験は問いません。まずはご連絡ください。

●編集会議 月1回程度 ●問合せ 人権・男女共同参画推進課 ☎33-1111(内線217)

編集後記

■今年の締めくくりの漢字は「金」でした。コロナ禍の中で、達成感と努力の結実したオリンピック・パラリンピック。様々な分野で「金」に値する話題に溢れていました。が、介護や収入格差なども浮き彫りになった、とても考えさせられる1年でした。(U)

■収束の兆しがみえないコロナ禍。外出を控え、マスク、うがい、丹念な手洗いと意気消沈の日々。そんな時、新たな編集スタッフが加わり、嬉しい出会いにヤル気復活。これからも、読みやすい情報紙をお届けしたいと思いません。(M)

■今回のテーマは「介護」。私の中で男女共同参画とは紐づいておらず理解に苦労しました。私の両親は老人ホームにいますが、弟が洗濯物など世話をしてくれています。これからは女性が一人で抱える介護はもう終わるのかもかもしれませんね。(N)

■今年も人と触れ合う時間が制限される一年になりました。そんな中、自粛生活がすっかり板についてしまった(笑)私です。今回のテーマがご家庭での話題の一つになりましたら嬉しいです。コロナよ、早く退散して〜。(E)